

会 議 録

会議の名称	令和3年度第2回本庄市総合教育会議		
開催日時	令和3年10月20日(水)	午前・午後 午前・午後	1時25分から 2時50分まで
開催場所	本庄市立児玉小学校 図書室		
出席者	<p>【構成員】 吉田市長、勝山教育長、岡崎教育長職務代理者、 落合委員、今井委員、高橋委員</p> <p>【教育委員会事務局】 高橋教育委員会事務局長、笠原教育総務課長、 柳教育総務課長補佐、岡芹学校教育課長、 瀧澤学校教育課長補佐、学校教育課武藤指導主事、 学校教育課栗原指導主事</p> <p>【事務局】 内田企画財政部長、橋本企画課長、 新井企画課長補佐、企画課石橋主事</p>		
議題 (次第)	1 開 会 2 市長挨拶 3 教育長挨拶 4 議 題 「コロナ禍における本庄市の教育について」 5 その他 6 閉 会		
配付資料	・次第 ・資料：コロナ禍における本庄市の教育について ・別紙資料：主な国や県の動きと本庄市・本庄市教育委員会の対応 ・参考資料：本庄市総合教育会議運営要綱		
その他特記事項	本庄市立児玉小学校内を視察		
主管課	企画課		

会 議 の 経 過	
発 言 者	発言内容・決定事項等
事務局 (企画課長)	<p>皆さまこんにちは。本日はお忙しいところ、令和3年度第2回本庄市総合教育会議にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。司会を務めさせていただきます、企画財政部企画課長の橋本と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>なお、本日は児童の安全を考慮し、本庄市総合教育会議運営要綱第11条の規定により傍聴を中止しておりますので、ご報告いたします。</p> <p>それでは、これより会議を始めさせていただきます。</p> <p>次第の2、市長挨拶でございます。吉田市長お願ひいたします。</p>
市長	<p>皆さまこんにちは。今年度2回目の本庄市総合教育会議は、児玉小学校様をお借りしての開催となります。どうぞよろしくお願ひします。</p> <p>前回の会議では「読書の推進について」と「教職員の健康管理について」ということで、活発な意見交換を行ったところでございます。本日の議題は、「コロナ禍における本庄市の教育について」ということで、コロナ禍におけるこれまでの本市の教育について検証し、皆さまからご意見を頂戴することで、本市の教育の方向性について議論ができればと考えております。</p> <p>私からは、本市における直近の感染状況及びワクチン接種状況をお伝えさせていただきます。10月15日現在、市内感染者5人で、そのうち1人が入院、3人が宿泊療養、1人が自宅療養という状況です。ときどき陽性者の確認はありますが、感染者0人の日も続き、8月に比べると感染状況はだいぶ落ち着いています。</p> <p>本日、高橋先生もお越しですが、ワクチン接種については医師会の先生方に大変ご協力いただき、順調に進めてまいりました。10月14日には、1,200人程の予約を受付けましたが、1日で予約枠が埋まらず、3～4日ほど経てやっと埋まったという状況で、接種を希望される方々の予約はほとんど終わったのかなと思います。</p> <p>ご自身の仕事の都合や体調により接種ができていない方や、6年生のお子さんは12歳になると接種券を送付することとなりますので、保健センターとしてはこれからも情報を追い、接種を希望される全員が打てるよう、医師会と協議の上、個別に対応していくことを検討しています。</p> <p>ワクチン接種のデータとしては、国のVRSというシステムで管理しており、ワクチンを接種すると接種記録が登録されるという仕組みです。これによると約73.2%の方が接種済みということがわかります。ただ、この数字には、他の市町村で接種した方の件数がどこまで反映しているかわかりませんので、実際には75～80%近くになっているのではないかと思います。</p> <p>また、政府は3回目の接種を12月頃から始めるということなの</p>

	<p>で、そちらについても対応をしていかなければなりません。今回、感染状況が落ち着いている要因の1つとして、ワクチン接種が大幅に進んでいることが挙げられるのではないかと考えています。専門家によると、11月の後半から12月頃に、第6波と呼ばれる感染拡大があるかもしれないということです。引き続き、市としても学校教育現場としても、注視していかなければなりません。</p> <p>そういった中、本日はコロナ禍における本庄市の教育の検証が議題となっておりますので、よろしくご議論をいただきたいと思っております。</p> <p>結びにあたりまして、教育委員の皆さまには日頃から教育推進のために御尽力いただき、改めて敬意と感謝を申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。</p> <p>本日はご参集いただき、誠にありがとうございます。</p>
事務局 (企画課長)	<p>ありがとうございました。続きまして、次第の3、教育長挨拶でございます。勝山教育長よりお願いいたします。</p>
勝山教育長	<p>皆さまこんにちは。市長からもお話がありましたが、8月の大変な状況の中で2学期が始まり、どうなってしまうのかと大変心配していたところでございますが、9月10月で落ち着き、2学期は学級閉鎖が1度もなく本日まできている状況です。</p> <p>昨年1月からコロナ禍となり、2月27日には安倍首相から全国一斉休校要請、その後3カ月に及ぶ休校で、これまで経験がないようなことが1年半あまり続いておりました。市長や保健部を始めとする諸機関と連携し御支援いただいたことで、他市に先駆けて教職員の優先接種が8月半ばには完了し、受験生である中学3年生につきましても10月17日に2回目の接種が完了いたしまして、大変有難く思っております。</p> <p>また、教育委員の皆さまには、大所高所からご指導いただき、大変ありがとうございました。特に高橋委員からは専門的なお立場でご指導ご助言いただきました。</p> <p>現在、学校では新しい学習指導要領による学習が始まっています。今回の改定の趣旨といたしましては、これからの変化が激しい社会を生きていく子どもたちに、未知の課題を主体的に解決していける力を付けていくことだと私自身捉えております。まさに今、未知の課題を主体的に解決していくことが、私たち大人に突き付けられているのではないかと思います。子どもたちが自分自身で解決できる力を、学校教育の中でしっかり付けていくことが必要だと改めて感じている次第です。</p> <p>コロナ禍における学校では、マイナス面が圧倒的に多いですが、そういった中でも新たな気づきがありました。校長方から学校行事の見直しの機会となったと聞いておりますし、ICTの活用が一気に進んだと思います。1月には市内の全小中学生にタブレットが1台ずつ支給され、9月には分散授業や分散登校が始まりICTの活用が加速したと感じているところです。1学期に学校訪問したときと、2学期に学校訪問したときとは、タブレットの活用の仕方が一段も二段も進</p>

	<p>歩しているなど感じました。また、タブレットを使う先生も増えており、ほとんどの先生が6時間の授業のうち、何らかの形で使うことがあるようです。</p> <p>本日は、始めに校内を見学いただき、そのあとに意見交換となりますが、私たちとしてもぜひこれまでの取組を検証したいところですので、ぜひ忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。</p>
事務局 (企画課長)	<p>ありがとうございました。ここで、配布資料の確認をさせていただきます。</p> <p>① 本日の次第 ②資料：コロナ禍における本庄市の教育について ③別紙資料：主な国や県の動きと本庄市.本庄市教育委員会の対応 ④参考資料：本庄市総合教育会議運営要綱</p> <p>以上、4点でございます。</p> <p>それでは、これより議題に入らせていただきます。本庄市総合教育会議運営要綱第4条第1項の規定により、市長が本会議の議長となることとされております。これからの議事の進行につきましては、吉田市長をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
市長	<p>それでは要綱に基づき、議事の進行をさせていただきます。会議のスムーズな進行にご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の会議録でございますが、本庄市総合教育会議運営要綱第7条第2項の規定により、「会議録には、市長及び市長が指名する1人の構成員が署名するものとする」とあります。本日の会議録につきましては、私と勝山教育長が署名するというところでよろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(異議なし)</p> <p>それでは、事務局にて作成された会議録につきましては、本日出席の皆さまにご確認いただいた後に、私と教育長で署名を行うこととさせていただきます。</p> <p>では早速、議題に入らせていただきます。「コロナ禍における本庄市の教育について」事務局から説明をお願いします。</p>
【議題】 コロナ禍における本庄市の教育について	
事務局 (学校教育課長)	(資料に基づき説明)
市長	<p>ありがとうございます。ただいま、「コロナ禍における本庄市の教育について」ご説明いただきました。本来であれば、ここで皆さま方からご意見を頂戴するところございますが、1時55分から5時間目の授業が始まると聞いております。実際にICTを活用した授業風景を視察していただきたいところですが、まだ5分ほど時間がございますので、何か補足で説明するところなどあり</p>

	ますか。
教育長	今日は総合的な学習の時間で、お囃子の練習があるそうです。
市長	そうですか。お祭りについては、山車を引き回すのは中止になってしまいましたが、各町会では山車を展示、飾りつけをして、11月3日の午後に3時間だけお囃子をするを考えているそうです。お子さんたちもお囃子をするのでしょうか。
事務局 (学校教育課長)	数年前、私が児玉小学校の教頭だったときの取組としては、3年生が山車を持っている字の歴史を調べ、その地域の方をお呼びし、お囃子の練習をします。練習したお囃子は11月の学校公開で、地域の方と一緒に、来校した保護者等へ披露するという取組を毎年実施しています。
落合委員	児玉には4つの山車・屋台があります。10月24日くらいに飾りつけをして、そこからお囃子の練習を始めるそうです。11月3日の午後1時と3時から、各会館の前でお囃子を披露します。
市長	虫干しの意味も含めて、年に1回は飾りつけ、外気に触れさせないといけませんからね。
落合委員	子どもたちは楽しみにしていますが、親からは不安の声もあり、自治会としては文化の継承が難しくなってしまうのではないかと悩んでいます。
市長	本庄でも同じ話を聞きます。自治会としては、お囃子の練習をさせてあげたいけれど、親御さんが練習に出させてくれないという話はあるようです。
落合委員	私の自治会は新町なのですが、以前は新町以外のお子さんも受け入れていましたが、今年はどうするかを検討しているところです。ただ、新町は子どもが少ないという声もあったので、各自治会と臨機応変に連携しながら進めていくと思います。
市長	4町会ではお囃子の演目がそれぞれ違いますよね。どのようにお囃子の練習しているのでしょうか。
教育長	4町以外の子もそれぞれの字に割り振り、本番もその字でお囃子をしています。落合先生がおっしゃっていましたが、昔は他所から子どもが入って来ることは考えられませんでした。最近子どもが少ないので来ていただく必要があります。
市長	町内だけでなく、児玉小学校に通っているみんなで支えているということですね。
落合委員	支える風を吹かせないといけません。子どもたちへ地域の文化を継承するため、青年会がやる意欲を見せています。
教育長	文化の継承と感染防止はジレンマがありますよね。学校で考えてみると、中学校の一大行事は卒業式ですが、今の1年生から3年生で中学校の卒業式を見た人は誰もいません。
市長	去年も今年の3月も、全体で卒業式ができなかったですからね。
教育長	感動的な場面を見て、自分も3年生になったら、という思いが代々あったと思いますが、そういったものが途切れてしまいます。

(♪ピーヒャラと笛の音)	
教育長	お囃子の音が聞こえてきましたね。
市長	そうですね。お囃子も聞こえてきましたし、校内の案内をお願いいたします。
児玉小学校 木村校長	お世話になります。今日は、3年生が地域学習で祭囃子の練習をしているので、声が聞こえにくくなってしまい申し訳ございません。では、よろしく申し上げます。
児玉小学校 視察(20分)	
市長	<p>ご移動のご協力ありがとうございました。木村校長にはお世話になりました。</p> <p>では、議事に戻ります。先ほど、事務局から説明のありました「コロナ禍における本庄市の教育について」、皆さまからご意見・ご質問等ございますか。授業風景を視察した感想などでも結構ですので、自由闊達に意見交換ができればと思います。</p> <p>それでは、私から口火を切らせていただいてもよろしいでしょうか。先ほど教育長からお話がありましたが、先生方も心配する中、2学期が始まったと思います。そういった中で、クラスターや大きな問題が起きずにここまで来られたということは、先生方も非常に神経を使われたと思います。どんなところに苦労があったのか、深掘りした話をお聞かせいただきたいと思います。</p>
事務局 (武藤指導主事)	2学期が始まるにあたっては、身体的な距離を確保することが大事なところでしたので、人数が多いクラスは大きな教室を使っていました。また、1クラスを2つに分け、一方のクラスで授業をしている様子を、もう一方のクラスへリモートで映し、空き時間の先生や補助員の先生に付いてもらい、同時に授業を行っていました。
市長	今日の様子は、正常に戻りつつある状態だったのですかね。これまでは、かなり神経を使っていたのですか。
事務局 (武藤指導主事)	先ほど1年生と5年生のクラスを見ていただきましたが、児玉小学校は5年生の人数が多いため対応が必要でした。2クラスを3クラスに編成し直すなど、学校ごとに工夫して対応をしていました。
市長	今日の様子ではシールドを外していましたが、いつ頃から外すようになったのですか。
事務局 (学校教育課長)	緊急事態宣言が明けてから、学校の実情に応じて緩和しました。机上のシールドが使い込むうちに曇ってしまったため、学習内容によっては外し、給食中には設置することとしています。
市長	普段はマスクをしていますからね。 皆さまからいかがですか。
岡崎委員	コロナ禍においては分散型の形式もあったようですが、人数が30人を超えると教室が狭いような印象を受けました。昔はもっと詰め込んでいたこともあると思いますが、35人も教室に入ると、

	<p>ロッカーまでぎっしりと机を付けるようなレイアウトになってしまいます。教室を広くするのは難しい話でしょうし、机が大きくなったこともあると思いますが、人数の上限としては今の教室では30人くらいが限界なのかなと思いました。</p> <p>例えば、災害が発生したとき、教室がぎちぎちだと影響も出て来ると思います。国の方針等もあるかと思いますが、今後のクラスの分け方については、目標とできればと感じました。</p>
市長	<p>少人数学級編成が段階的に行われていくわけですが、今後はどのようなようになるのでしょうか。</p>
教育長	<p>今後は1クラス35人までとなるため、小2から段階的に進めており、来年は小3、再来年は小4と進めていく予定です。埼玉県は1年前倒しで進めています。</p>
市長	<p>35人学級としていくのですね。35人でも多いイメージはありますが。</p>
教育長	<p>机のサイズも大きくしているので、確かに窮屈感があります。ただ、35人編成となると、実際には30人以下20人ほどの学級が一気に増えることとなります。9月の緊急事態宣言時には、1クラス30人程度を上限としており、30人を超えるようであればクラスを分けたり、広い部屋で授業をしたりしていました。</p>
落合委員	<p>広い部屋で分散して授業をするのは、ほとんどの学校で実施できたのですか。</p>
教育長	<p>できました。ただ、仁手小学校や藤田小学校、西小学校、共和小学校はもともと1クラスに30人までいませので、特段対応はしておりません。</p> <p>9月の対応では、児玉中学校は分散登校型で、1日おきに家でリモートをしていました。感染防止の方法としては、一番いいやり方ではありましたが、正直なところ、始めは無理ではないかと思っていました。ただ、学校が始まって2日目頃に様子を見に行ったところ、思っていたよりもできており、先生方の適応力がすごいと改めて感じたと言っていました。</p> <p>ICTに関するスキルは先生方にも差がありますので、どの教室でも同じように授業ができるよう、タブレットとテレビをセットしました。一方的に解説するだけと思っていましたが、双方向型でできたので、市内の校長を児玉中学校に集め、操作方法などを検証しました。</p>
市長	<p>双方向ができるのはすごいですね。自宅にいても安心です。</p> <p>タブレットを導入したことで、不登校あるいは不登校気味な子、特に勉強はしたいけど学校に行きたくないというお子さんにとっては、非常に効果があったのではないかと思います。そういった事例などは聞いていますか。</p>

事務局 (瀧澤課長補佐)	市長がおっしゃるように、学校という集団生活に抵抗があるお子さんでも、タブレットを使用することでハードルが下がった状態で関わりを持てますので、担任と繋がることができ、実際に学習へ参加する回数が増えたというのは聞いております。
市長	適応指導教室におけるタブレットの使い方はどうなのですか。
事務局 (瀧澤課長補佐)	いろいろと試している段階ではありますが、学校と繋がることのできるという部分が大きいかなと思います。普段は適応指導教室にいる子も担任の先生と繋がれますし、タブレットを通じて授業の様子も見られるので、いい機会になっていると思います。
今井委員	学校訪問の際、今まで挙手して発表することに抵抗があった子が、タブレットを使うことによって自分の意見を発表でき、周りの友達と共有できたという利点があったと校長先生がおっしゃっていました。
市長	それは感じましたね。自分が書いたものを共有することが、恥ずかしいと思う子もいると思います。意見の共有が当たり前になるといいですね。
今井委員	逆に、スピーチ力も養っていかなければならないというお話もありました。
市長	自然と養われてしまう部分もあるかもしれません。
今井委員	意見を出すことに抵抗はなくなりますからね。
市長	そうですね。1年生のクラスでは、みんな手を挙げて意見を出していて、屈託なくていいなと思いました。
教育長	私も小学1～2年生にタブレットは難しいかなと思っていましたが、なんの抵抗もなく扱っていて、慣れればできるのだと思いました。
今井委員	これも学校訪問での話ですが、低学年の場合、家では自己管理ができず、テレビを見ながら授業を受けている子もいるそうです。やはり中学生ぐらいからできるようになるのかなと思いました。その差はやはりあるかなと思います。
落合委員	<p>今の子どもたちは、生まれたときからタブレットなどを遊び道具として与えられており、時代の先駆的な状況で育っています。ここで気を付けなければいけないのは、どれだけ教育としてタブレットやコンピューターを使うかということです。書くということも、どこかでしっかり押さえておかなければなりません。</p> <p>低学年の場合、タブレットを使いながら書くことは難しいですが、高学年の場合はサブノートを用意して必要事項は書くという取組をしなければ、記憶の中で様々な誤差が生じてしまうかと思っています。大学生を見ても感じますが、書き順がまるっきりでたらめだったり、教職課程で板書ができなかったり、逆に板書をしないようにパワーポイントを使用したりしています。</p> <p>そういった中で、先生方のスキルをどのようにディベロップメントしていくかを注視し、子どもたちへの対応にリンクさせてい</p>

	<p>く方向性を示すことで、より良いものができると思います。</p> <p>先進的にやっているところがあると思いますので、ぜひ調べて加味していただければと思います。</p>
<p>事務局 (栗原指導主事)</p>	<p>落合委員がおっしゃるとおり、そこについては現場の先生方も試行錯誤しているところでして、板書とモニターの使い分けやノートに書かせるという部分は、これから研究を進めていく必要があります。</p> <p>本市の本庄型授業スタンダードという授業の進め方においても、まとめと振り返りについては、子どもたちにしっかり書かせるということを、現場の先生にお願いしています。ノートいっばいに振り返りを書ける子がどんどん育っていますので、そういったところを活かしながら、ICTをうまく活用していければいいかなと思います。</p> <p>先進的な自治体の取組も研究し、教育委員会として基本的な方向性を出していきたいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>落合先生からの大事なご指摘と、教育委員会からの確なお答えをいただき、なるほどと思いました。</p> <p>手で書くのとタッチパネルでやるのでは、脳に与える刺激が違うのでしょうか。</p>
<p>落合委員</p>	<p>書き取りだと、目で見て手を動かして口で言って耳で聞いてと五感を使っています。最近は書き取りの機会が減っており、入試もマークシートですので、これからの知的文化の弊害になるのではないかと考えています。</p>
<p>市長</p>	<p>マークシート式だと確率を勉強した方が有利じゃないかと思ってしまいますよね。</p> <p>ありがとうございます。他にいかがですか。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>難しい課題でしょうが、コロナ禍で学習の到達度や達成度に、学年や学校別で差が出てしまったのではないのでしょうか。全国一斉の学力調査があると思いますが、学校や学年、個々でその到達度を評価し、どういったところが落ちてしまったかを調査することが非常に大切だと思います。</p> <p>コロナ禍を契機として、できなかったことや学力が落ちた部分を調査してまとめておくと、次に何かあったときの対応に有用ですので、これまでの工夫を評価し、対応策を練っていただければという提案でございました。</p>
<p>落合委員</p>	<p>高橋先生と同じですが、例えば、今回の資料について、教育委員会がこういうふうにしてくださいと発信したとき、現場の先生がどのような対応をし、どうだったかということを書き足せば、すごく貴重な資料ができると思います。校長先生にはお手数をかけるかもしれませんが、どのように現場が動いたかを残しておくことは必要だと思います。そうすれば、次に何かあったとき、貴重な資料になると思いますし、それが積み重なって新たな方法が</p>

	<p>出て来るかもしれません。そういった対応もしていただければ、高橋先生のおっしゃったことが、さらに積み上げていけるかと思えます。</p>
市長	<p>高橋先生からは学力の習熟度の差等についてのご指摘、落合先生からは発出文書に対する現場のリアクションを書き込むことで、今後の危機管理に活かせるのではないかというお話をいただきました。何かコメント等ありますか。</p>
教育長	<p>高橋先生のお話についてですが、この足掛け2年、いろいろなことが制約されています。今はタブレットでできていますが、体育や音楽、コミュニケーションや話し合いは、一時はできない状況でした。コロナ禍で子どもたちがどのような影響を受けたかを検証し、なるべく差を縮めるような手立てを考えていかなければならないと思えます。</p>
市長	<p>歴史を紐解いたとき、先の大戦においても、世代によって受けた影響が違ふとありました。2年にわたるコロナ禍で受けた影響も、世代によって違ふと思えますので、悪い方向に影響が出ないようカバーしていくことが必要です。今日の子どもの元気な姿を見ていると、期待も出てきますね。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
高橋委員	<p>では、もう1つよろしいでしょうか。</p> <p>今年の冬、コロナとインフルエンザの流行があるかないかは神のみぞ知るところですが、もし流行した場合、コロナの濃厚接触者の場合は2週間出席を控える指示があり、インフルエンザでは解熱や発症から数日間、確か5日から6日間程度出席を控えるような決まりがあり、差がかなり大きくなっています。コロナかインフルエンザかは、PCR検査を受けるしか判別する方法がなく、受けられない場合はどのように判断し、整合性を取っていくかが重要です。</p> <p>今冬、インフルエンザの流行があった場合のことを、危機管理として考えて、学校の対応を早めに決めておくことが大切だと思います。</p>
市長	<p>現在、インフルエンザかコロナかがわからないときの決め事は、どうなっているのでしょうか。タブレットが普及している中、やれることがあるのでしょうか。</p>
教育長	<p>今年の1月から2月では、インフルエンザによる学級閉鎖は0件でした。真偽の程はわかりませんが、インフルエンザが少なかった次の年は、感染が増加するという話を聞いたこともあり、今度の冬は心配しているところです。</p> <p>先ほど高橋委員がおっしゃったように、国が定めたルールがありますので、それに則って学級閉鎖等はしていくこととなりますが、学習保障をどうしていくかという点については、タブレットをうまく活用することが大事かと思えます。</p>

市長	タブレットは持ち帰り可能となっているのでしょうか。
事務局 (栗原指導主事)	通常時の持ち帰りはしていませんが、非常時には行うこととしてしています。
市長	そうでしたね。緊急事態宣言中は、児玉中学校はタブレットを持ち帰っていましたね。平常時まで持ち帰る必要はありません。
教育長	そうですね。タブレットは結構重いです。
市長	小さい子にとっては重そうですね。
教育長	落としても大丈夫な機種ではあるのですが、すでに破損や故障の報告も出ています。それを恐れて使わせないというのは本末転倒ではありますが。
市長	<p>今日の様子を見ると、タブレットは本当によく使われているなと思いました。全国的にもそうなのでしょうね。もう後戻りはしないでしょうし、このままパソコンを使って習熟していくと思います。先ほどの板書の話でもありましたが、先生方もいろいろ試行錯誤し、お子さんに字を書かせることも両立させていくことになると思います。</p> <p>現下はコロナ禍が続いているので、インフルエンザの場合も含め、いざとなったときにはできるだけタブレットを使用し、お子さんの学力が落ちないようにすることが大事だと思います。</p> <p>修学旅行についてはどうでしょうか。代替案を含め、実施はできているのでしょうか。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>中学校につきましては、延期等ありましたが4校中2校がすでに実施し、児玉中学校は旅行先を北陸方面へ変えて、今月末に実施する予定です。</p> <p>小学校については、主に今月と来月に実施する予定です。</p>
市長	ほぼ行けるということですね。
事務局 (学校教育課長)	そうですね。ただ、小学校は鎌倉・江の島が主流でしたが、南下すると緊急事態宣言などが心配でしたので、栃木県や長野県方面へと旅行先を変えて実施としました。
市長	バスを使用するのですか。
事務局 (学校教育課長)	小学校の場合、全てバスとなります。
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>保護者の判断ではありますが、小学6年生からワクチンが打てることになっています。ワクチンが打てない学年の保護者あるいはワクチンを打てる状況の中でも抵抗のある保護者の方から、先生方が相談を受け、苦勞したり悩んだりしている事例はあるのでしょうか。学校にはそういった話は持ち込まれていないとみていいのでしょうか。</p>
事務局 (瀧澤課長補佐)	副反応による相談はありますが、基本的には誰が打って誰が打っていないということはわからないため、そういったトラブルは届いていません。

市長	ワクチンを打たない子に対し、偏見の目が向けられることは起きてはならないことですので心配されるところです。そのあたりの配慮も各学校でしていると思いますが、トラブルはないということですね。
事務局 (瀧澤課長補佐)	そうですね。こちらもすごく心配していたところではありましたが、ワクチンについてもコロナの罹患についても、いじめや差別に繋がるようなことは、現在のところ報告はない状況です。
落合委員	資料の1ページ、2月28日の通知で気になることがあったのですが、その他のところに、どうしても仕事を休めない場合は学校で預かる旨が書かれています。利用状況はいかがだったのでしょうか。
事務局 (瀧澤課長補佐)	地域によって差があり、ほとんど預かりがない学校もあれば、例えば児玉小学校については利用が多かったようです。
落合委員	お弁当持参というのが、ハードルになったという声を地域の方に聞きました。
教育長	弁当ではなく給食を出してほしいという話があったのですか。
落合委員	親にしてみれば、学校に行けば給食があると思っていますので。
今井委員	お休みの日の学童も、お昼はお弁当です。
教育長	家にいてもご飯は食べますからね。
落合委員	どの程度の利用率だったか確認をお願いします。
事務局 (学校教育課長)	確認をしておきます。
市長	他にご意見等ありますか。よろしいでしょうか。 コロナ禍ということで、なかなか出口が見えませんが、日本全国、世界全体も、みんなが手探り状態です。そういった中で、先生方の工夫や、お子さんが集中してタブレットを使っている新しい光景を見ることができました。また、お囃子も同時に聞け、伝統と未来が交錯した非常に興味深い光景を見せていただきました。 これからも大変だと思いますが、教育委員会につきましては、ぜひ今後もよろしくお願ひしたいと思ひます。 では以上で、議事は終了とさせていただきます、進行を事務局へお返しします。ご協力ありがとうございました。
事務局 (企画課長)	皆さまには慎重審議大変ありがとうございました。最後に、その他といたしまして、今後のスケジュールについてですが、次回の日程につきましては、決まり次第、ご連絡いたしますので、よろしくお願ひいたします。 以上をもちまして、本日の日程をすべて終了いたします。本日は、ありがとうございました。

様式

市長

吉田 浩解

教育長

勝正 勉
